



大凧 便り 第238号

大凧会館HP <https://higashiomi-j.com/oodakokaikan/>
ブログ発信中 https://gj-gj.com/users/oodako_museum

編集・発行 世界凧博物館東近江大凧会館 令和8年3月15日発行
〒527-0025 滋賀県東近江市八日市東本町3番5号
TEL: 0748-23-0081 FAX: 0748-23-1860
I P: 050-8034-1140



開館時間: 9時~17時 休館日: 水曜日、第4火曜日、祝日の翌日
平成18年度から指定管理者制度により(公財)東近江市地域振興事業団が管理しています。

毎月第3日曜日は「家族ふれあいサンデー」 東近江市民の方は、「ふれあいカード」をお持ちの上、家族でお越し下さい

＝500体以上の福よせ雛登場！「福と笑いが溢れる、福よせ雛現る！！」開催中＝

開催期間 4月5日(日)まで 開館時間 午前9時から午後5時まで (入館は午後4時半まで)
期間中の休館日 水曜日・3/24 入館料 一般: 300円 小・中学生: 150円



2月には春の訪れを感じる暖かい日が続きましたが、3月になって寒さがぶり返してきました。春は、そこまで来ているようですが、まだまだ寒い日がありそうですね。季節の変わり目ですので、体の健康には十分気をつけてお過ごしください。

さて、2月14日から始まった「福よせ雛」も後半戦となりました。来館いただいた方の中には、「くす」とお笑いになられたり、長い時間色々な「福よせ雛」を見ておられたり、風変わりな「福よせ雛」を見つけたお子様とご両親が楽しまれていたり、「あら、こんなところにもお雛さま」と見つけては、ほほえんでいらっしたりと、皆さん楽しんでおられました。また、「おひな様はこんな風変わりな格好も出来るの」と感心される方もおられました。私たちスタッフもご覧になっている時の何気ない会話の中に「そんな見方もあるのか」と気づかされることも！！

人形の手足を伸ばしたり、道具を持たせたりしていると、人形が生き生きしていくように思われました。おひな様の第2の人生を是非大凧会館に足を運んでご覧になってください。

おひな様・スタッフが皆様をお待ちしております。



＝第5回福よせ雛うちが一番選手権＝



大凧会館の今年のテーマは…「笑いの王座は譲らない！」昨年の「福よせ雛うちが一番選手権」全国1位という栄冠を胸に、今年はさらにパワーアップして4月5日(日)まで「福よせ雛」を開催しています。とにかく豪華で、どこを見てもユニーク。お雛様たちの全力の「笑い」と「遊び心」が詰まっています。目指すは、もちろん二連覇！皆さんの1票が、お雛様たちの力になります！



QRコードから Instagram → 「いいね」で投票

令和7年度東近江学第4回

＝「大凧に隠された「判じもん」の秘密」＝



去る3月7日、てんびんの里文化学習センターにて開催された連続講座「東近江学」第4回（東近江市主催）において、私、当館の鳥居勝久館長が「空からのメッセージを解き明かす！大凧に隠された『判じもん』の秘密」と題して講演を行いました。

凧の歴史というテーマから始め、紀元前の中国を起源とする説や、平安時代に日本へ伝わった当時はその形状から「イカ（いかのぼり）」と呼ばれていたこと、そして江戸時代の禁止令を逃れるための「これはイカではなくタコだ」という庶民の屁理屈が現在の呼び名の由来になったというユーモア溢れるエピソードなどに、会場からは驚きと笑いが漏れていました。また、凧は単なる遊び道具ではなく、かつては「測量」や「心理戦」といった軍事目的、さらにはベンジャミン・フランクリンによる「雷の正体」を突き止める科学実験の道具として使われてきた歴史も紹介し、受講者方に凧が持つ多面的な役割について熱心に耳を傾けていました。



その後、東近江大凧の歴史や特徴を説明し、今回のメインである東近江大凧の最大の特徴「判じもん」の話となりました。

江戸時代に流行した「鎌わぬ（鎌＋輪＋ぬ）」などの判じ絵の文化を最初に説明し、当地域の大凧がいかにしてメッセージを伝えてきたかを説明しました。「公益を進む」（1953年）：鯉（公）と「益」「進」の文字で戦後復興の願いを込める。「万国博賀正」（1969年）：岡本太郎氏の助言により、太陽の塔とモノレールが描かれた斬新なデザイン。「舞台は東近江市へ」（2005年）：鯛（舞台）と「舞」の文字で、合併による新市誕生の祝い。時代ごとの世相や祝い事を、絵と文字の組み合わせで表現する「粋」な文化を紹介しました。今年5月2日に開催される「100 豊敷大凧」の飛揚について触れ、100人の引手を必要とする大規模な飛揚を支えるための役割分担や、昨年夏に12年ぶりに行われた制作過程など、現場を支える保存会の情熱を語り、最後には、江戸時代の飛揚絵図などの実物を参加者にご覧いただき、講演を締めくくりました。

今回の講演を通じて、参加者の皆さまには、次に見上げる大凧がこれまで以上に意味深く、誇らしいものとして映ったのではないのでしょうか。

当館では今後も、この貴重な伝統文化の面白さを発信し続けてまいります。

＝織田瑟瑟桜画展＝

江戸時代の絵師であり、東近江市川合寺町を終のすみかとした織田瑟瑟（おだ しつしつ）。彼女が残した美しい桜の掛け軸の数々は、令和の今も見る人の心を温めてくれます。7年ぶりの開催となり、「祈りと響き」をテーマに、伝統ある桜画の展示に加え、音楽演奏などを同時開催されます。春のひとつ、心をつなぐひとつを共に過ごしてはいかがでしょうか。

日時：2026年4月5日（日）9:00～16:00

会場：西蓮寺（東近江市川合寺町126）

拝観料・作品展：無料

主催：川合寺町桜画展実行委員会・西蓮寺



＝東近江大凧会館のブログアドレスの変更について＝

東近江大凧会館のブログで、長らく利用してきた「滋賀咲くブログ」が3月末日で利用が終了するため滋賀県民のサイト「げじげじ」のサービスを利用して大凧会館のブログを運用することとなりました。

今後、下記のアドレスになりますのでよろしくお願いいたします。

https://gi-gi.com/users/oodako_museum

＝100 豊敷東近江大凧 11年ぶりに飛揚！＝



暖かな日もあり、だんだんと春が近づいている気配を感じます。大凧会館の「キリンソウ」から、たくさんの新芽が出ていたので、太陽の光が当たるよう、要らない枯れた部分を少し剪定しました。これからグングン成長してくれると思います。

さて、2015年から長らく休止していた「100 豊敷東近江大凧揚げ」を、5月2日（土）に11年振りに開催する運びとなりました。

今回の開催は、かつての「東近江大凧まつり」のような大規模なイベント形式ではなく、伝統文化の継承と安全な実施に特化した「大凧揚げ行事」として開催します。そのため、午前10時開会、午前11時ごろに大凧を飛揚し、正午ごろ終了という短時間のスケジュールを予定しております。会場は能登川にある【ふれあい運動公園】です。

今回揚げる100 豊敷東近江大凧の図柄のテーマは『昭和百年』です。ひとつの節目である昭和100年の年に、良くも悪くも激動の時代であった「昭和」を振り返り、苦難を乗り越え、今の日本の礎を作り出してきた、先人のたくましさや叡智を学ぶことも大事なことであり、と感じています。これからのグローバルな時代に、我々が元気に勇気を持って、益々まい進していけるようにという願いも込めて、はんじもんは「慶祝（鶏祝）昭和100年」としました。描かれている「鶏」は「にわとり」とも読み、新しい一日の始まりを告げる存在として、未来への希望や活力を象徴しています。東近江市の空から大凧を通じて全国に「慶祝」のメッセージを発信したいと考えています。

シャトルバスの運行情報など、100 豊敷東近江大凧揚げの詳細については、これから関係各位の皆様と調整をしながら決定いたしますので、もうしばらくお待ちいただければと思います。

＝巻き起こせ滋賀学園旋風！凧贈呈＝



3月12日（木）、東近江市建部にある

滋賀学園高等学校野球部が「第98回選抜高等学校野球大会」に出場することを記念して、東近江大凧保存会からミニチュア大凧が贈呈されました。今回贈呈した凧には、



上部には縁起の良い亀の姿（甲羅）、中央には「子」の文字と〇（円）、下部には朱で「祝」の文字が描かれており、これらを組み合わせて『祝・甲子園』（祝甲子園）と読み解きます。さらに、こめられた意味は「判じもん」だけではありません。甲羅の強さ＝守る力や持久力をあらわしており、そんな亀の見上げる先はピラミッド型の雲の頂点（優勝）です！

滋賀学園の初戦は長崎西高校で、3月20日（金）を予定されています。大凧が揚がる上昇気流に乗って、甲子園に巻き起こされる滋賀学園旋風。そんな姿に期待して、東近江市民で一致団結！応援しましょう！

＝2026年4月の予定＝

- 4月5日（日）まで 福よせ雛
- 19日（日） 家族ふれあいセンター
- 19日（日） 飛揚参加者説明会
- 19日（日） 100 豊敷東近江大凧 丸骨の選定等
- 25日（土） びわこジャズ東近江 2026
- 26日（日） びわこジャズ東近江 2026
- 26日（日） 100 豊敷東近江大凧

縦横の丸骨の取付け、つり糸の取付け、願い札貼り

4月休館日：4/1・4/8・4/15・4/22・4/28・4/30